

令和5年度能代市総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和6年1月9日(火)午後3時～4時
- 2 場 所 能代市役所本庁舎 3階 会議室9・10
- 3 出席者 能代市長 齊 藤 滋 宣
能代市教育委員会
教育長 高 橋 誠 也
委 員 木 村 高 寛
委 員 西 村 省 一
委 員 中 嶋 佐千子
委 員 寺 田 恵美子
教育部
教育部長 伊 藤 勉
教育部次長 関 俊 英
教育総務課長 三 沢 純 一
学校教育課長 安 部 芳 幸
学校教育課参事 三 洲 龍 太
学校教育課参事 大 山 恵 美
学校教育課指導主事 柴 田 裕 彦
学校教育課指導主事 大 山 祐 子
学校教育課特別支援教育
統括コーディネーター 加賀谷 勝
子育て支援課長 近 藤 紀 子
教育総務課長補佐 秋 林 純
教育総務課主査 松 橋 陽 子

4 案 件 特別支援教育と不登校対策の成果と課題について

【開会】(教育部長)

ただいまから令和5年度能代市総合教育会議を開催する。

【市長あいさつ】(市長)

特別支援教育と不登校対策の成果と課題について、皆様から忌憚のないご意見をお願いしたい。

子どもたちは、皆様からの提言や見守りにより、元気に健やかに成長している。これからも未来を担う子どもたちが元気に明るく、のびのびと育つよう、皆様からのご意見を反映し努力していきたい。

【教育長あいさつ】（教育長）

新たに制定された能代市の教育大綱は、昨今の諸課題について具体的な取組の方向性が示された。今年度は大綱に沿って動き始めているところである。

本日は、幼児通級指導教室「すてっぷ」、特別支援教室「ステップアップ」の開設、特別支援教育統括コーディネーター、アドバイザーの配置等、能代型の特別支援教育の体制を構築したことによる成果と課題や、適応指導教室「はまなす広場」、「風の子電話」の設置等、不登校に関する成果と課題について協議し、今後のさらなる充実のためご意見をいただきたい。

【案 件】（部長）

これ以降の会議については、能代市総合教育会議運営要綱第3条の規定に基づき、市長が議長として進行する。

○議長（市長）

次第3の案件「特別支援教育と不登校対策の成果と課題について」説明を願う。

○学校教育課長

《資料により説明》

○議長（市長）

ただ今の説明について、皆様方からご意見を頂戴したい。木村委員から願います。

○木村委員

特別支援関係と不登校に関しては、デリケートな問題であり、人権や人間の尊厳に配慮が必要かと思う。

学校教育とは、人と人とお互いに理解し合い、共に生きるということを学ぶことだと思う。誰一人取り残されることなく、安らかに暮らせる場が学校である。

地域、家庭、学校の連携、そして、子どもと保護者に安心と自覚が生まれてくるような指導が必要である。

安心とは、支援教育のあり方が保護者、児童生徒に伝わるところから生まれ、責任とは、親が子どもにどう接すればいいのかというノウハウをしっかりと持つことであり、そこに信頼関係、連携が生まれてくる。

保護者と学校と子どもが共に子どもの未来を見つめて歩いていく、その方向性を共有することで自立の道が生まれてくると感じる。

適応指導教室に通っている子どもや保護者の目線に立つことが重要である。そして子どもの話をうなずきながら聞く。「待っているよ」の一言が生きていく支えになっていくのだと思う。返事がないときは受け入れる器を持って接しなければならない。

この能代市の展開を能代山本地域の教育委員会全体で共有したいという思いがある。また、幼保と小中学校間で特別支援教育に関する情報交換を増やせたらいいと感じた。

○西村委員

特別支援教育については、学校訪問で見学し、先生方の指導方法が非常にすばらしく感

心している。

できなかったことが何度も繰り返すことによってできるようになり、それを先生に褒められることにより喜びを感じるという姿を見てきた。

多様な人との関わりを認め合い、共に生きていくという社会を目指すインクルーシブ教育との関連があるので、通常の学級で学習や生活をしながら特別支援教育を受けることができることはとても良いと考える。

課題にある指導員、支援員の人数の問題は心配である。できる限り必要人数の配置をお願いしたい。

子どもたちが、たくましく、意思を持って自立していけるように、幼児期からの切れ目のない継続的な支援がこれまで以上に必要であると感じた。

今の時代は、学校は休んでもいいものだという風潮が広がっているように感じる。先生方も家庭の事情など踏み込めず対応できないところもたくさんあると思うが、能代市の不登校率が低いのは、先生方が心配な子どもを早い段階で見つけ、適切な支援をしていることや、不登校の原因を、本人、保護者と連携してよく調査していることだと考える。

はまなす広場は非常に効果的と感じる。保護者は、子どもの将来のことが不安になり学校へ通ってほしいと願っていると思うが、学校と連絡を取り合い、相談ができれば安心できると思う。

子どもにとって一番良い方法を、家庭や学校、地域全体で考えて選んでいけるようになればと思う。

教育に関係することは、すべて能代市の未来、日本の未来に繋がることだと思うのでよろしく願います。

○中嶋委員

はじめに、令和5年9月、能代第一中学校で行われたICTを活用した公開事業で、先生が生徒全員の回答の進行状況を即座に把握できるなど無駄のない授業が進められていた。タブレットの活用により能代市のICT教育をスタンダードな環境に整えていただいたことに感謝する。

不登校児童生徒数は日本全体で増加となっているが、その人数に注視するのではなく、ひと月に1名でも2名でも、不登校から登校へと改善した児童生徒がいることに目を向けることが大切だと考える。不登校の改善は現場の先生、教育委員会、はまなす広場、他の機関の方々の努力により成り立っていると思う。

特別支援教育、不登校の今後の対策としては、適切な時期に適切な支援が必要で、教育相談機能の強化には、人材の確保が必要だと思う。

6年度は特別支援を必要とする児童生徒が増加することから、支援員の増加、そして教育支援センターの充実は必要なことではないか。

子どもが育つ場所は未来ある場所だと思う。未来ある子どもたちのために、今後ともよろしく願います。

○寺田委員

今回の案件で大事だと思う点を二点お伝えしたい。

一つ目は、特別支援も不登校も対応にあたる教職員等を確保し、そのための財源を確保することが必要不可欠であるということ。

二つ目は、不登校の要因を可能な限り究明することが大事だと考える。無気力や不安の数値が高いことがとても心配である。

コロナ禍において、子どもたちは非常に現実をよく受け止めており、与えられた環境の中で、様々な制限にも負けずに乗り越えてきているものと思っていた。たくましく頼もしいものだなと思っていたが、大人が失った3年間と成長期の子どもたちが失った3年間では、その重さが違うということを感じた。適切な時期に必要な体験経験をすること、その時期に培われるべき力、特に人間関係であったり、信頼関係を築くためのコミュニケーション能力といったことなどを、しっかりと備えることがとても大事だったのではないかと思った。

また、不登校の要因が一つとは限らず、複数を複合的に抱えている児童生徒がいるということを知った。学校の問題だけではなく、家庭環境によるものも大きいということ、身体的な病気やけが、精神疾患、多感な時期の心理状況や情緒の問題などがあり、それらすべてを学校や教育機関、家庭だけで解決していくというのには限界があることから、関係機関や地域と連携を強化していくことが必要なのではないかなと感じた。

所管の枠を超えて子どもたちのSOSにきちんと向き合っていくことがこれからは求められてくるのではないか。そのためには、行政や福祉、医療機関のデータを集積し、すべての機関で共有が図られていくことで不登校の要因などが早期に解決できるのではないかと思う。

○高橋教育長

学校教育の最終的な目標は、子どもたちそれぞれが、自分なりの幸せな人生を歩んでいくための社会人としての基礎を作ることだと思っている。学校は集団の中で社会性を養っていくことと同時に、子どもたち一人一人の個性や事情に寄り添った教育も、以前に比べて重要視される時代になったと感じている。

ここ数年、市が取り組んできた特別支援教育や不登校対応にも成果もありながら、課題も明らかになってきた。また学校や教育行政だけでは対応できない様々な問題も出てきている。

今日の話し合いの中ですぐ対応できそうなこと、少し時間がかかりそうなものもあるが、今後、さらに検討していきたいと思う。

私たちは、「学び合う 感謝と思いやりに溢れる“わ”のまちの能代」を目標に、地域連携、人との関わり、人材育成、親子家庭教育への支援、読書活動の推進、インクルーシブ教育、ICT、安全安心な学校教育、生涯学習、若者の参画、文化芸術と絡めたふるさと教育、子ども若者を含めた市民のスポーツの機会等について、今後取り組んでいくべきことは多岐にわたっているが、子どもの原点となる家庭の教育力について踏み込んで考えていきたいと思っている。若い保護者の子育てや親の責任、それについての相談も、様々な啓発や、充実した支援により、親の困り感に寄り添い、特に幼保の保護者、若い世代の保護者には、小中学校で起こり得ること、今起こっていることについて、早めに適切な対応をすることが大切であることを情報発信したいと考えている。

○斉藤市長

特別支援を必要とする保護者の気持ちに寄り添っていただいていることに、大変感謝している。

知的や身体的に支援を必要としている子どもが教育を受けるときに、ハンデを感じないような環境を提供したいという思いでやっていると思う。また、支援を必要としている子どもと一緒に学んでいる子どもたちが、その子を特別だと思わず向き合える人に育てることが大事だと思う。

様々な人がいて世の中を形成しているということを学べるような教育であってほしいと感じた。特別支援教育の理解のため、これからもこういう機会を作ったらいいと思う。

○部長

これを持ちまして、令和5年度能代市総合教育会議を閉会する。